

## 卒業研究を通してのキャリア学修の取り組み

森 田 清 美\*

### 1. はじめに

高等学校での進路指導は上級学校への進学と就職の2つである。大学においては、進路指導はキャリア教育であり、就職活動そのものである。しかしながら、4月に会ったゼミの短期大学2年生は、就職活動をしているとは程遠いものであった。「動かない！個人面談をしても他人事…」という状態で、どうにかしなければ…という教員側の焦りが空回りし、卒業研究の指導の時間が重たいものとなってしまった。卒業研究とゼミ生の就職指導（キャリア教育）はチューターに任されている部分が多い。もちろん、キャリアセンターをはじめ教職員全体での支援体制が整っている。しかし、何よりも学生自身の就職活動が内定という結実となる。等身大のキャリア学修の取り組みを報告したい。

### 2. キャリア教育

そもそもキャリア教育（英：career education）とは何か。キャリア（経験）を活かして、現在や将来を見据えることなどを主眼として行われる教育のことである。「フリーター」や「ニート」が話題となった約十数年前、若年層の雇用問題に対する政府の対策として、文部科学省、厚生労働省、経済産業省などの関係府省で連携を図り、2003年『若者自立・挑戦プラン』に基づき、若者たちに勤労観、職業観を育み、自立できる能力をつけることを目的とし、インターンシップ推進や地域人材の活用などが行われ、一般的にこれらを総じて「キャリア教育」という。学校教育においては、1999年の中央教育審議会答申『初等中等学校と高等教育との接続の改善について』の中で「学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育）を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」としている。教育現場において、小学校では社会科や生活科の授業の中で、地域で働いておられる方から仕事について聞く調べ学習、中学校では職場体験、高校ではキャリア教育として職場体験や大学見学と学校で取り組みがされている。その小・中・高校での学習の上に、多くの大学ではキャリア教育の講義での学修がされている。そして、キャリア教育で身につけさせたい力として図1にあげられている。しかし、個々の学生の実態にそれらがなかなか成果と結びついていない。

---

\*比治山大学短期大学部総合生活デザイン学科

- |  |
|--|
| (1) 人間関係形成能力（自他の理解能力とコミュニケーション能力）<br>(2) 情報活動能力（情報収集・探索能力と職業理解能力）<br>(3) 将来設計能力（役割把握・認識能力と計画実行能力）<br>(4) 意志決定能力（選択能力と課題解決能力） |
|--|

図1 キャリア教育において身につけさせたい力

### 3. 卒業研究におけるキャリア学修の関わり

次の図2に示すように、卒業研究での活動をキャリア学修に関連づけて取り組むこととした。

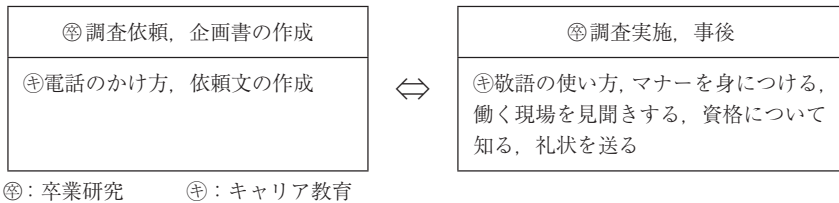


図2 卒業研究とキャリア学修の関わり

#### ●卒業研究，まずは動こう！

本ゼミの卒業研究のテーマは『B級グルメを考える』（仮題）で、地方都市での町おこしの一策としてのB級グルメの認知度と様々な食のイベントを考えてみるという研究を共同で行うこととした。ゼミ活動の中で、「広島は地方都市であるのに、B級グルメを競う『B-1グランプリ』で優勝したことがないのはなぜだ。菓子博が旧広島市民球場で開催されるけど…。内容は？菓子博について調べては…？」という意見が出てきた。菓子博の主催者に開催の意図を聞く、来場者に感想を聞いては…。という意見が出た。そして、関係各署にコンタクトを学生自ら電話連絡をすることにした。しかし、菓子博の運営本部からアンケート調査はできないと回答され、ひろしまフラワーフェスティバルでのアンケート調査を考え、広島県観光課に相談するが難しいとの返答であった。最終的に、中国SC開発株式会社アッセ事業部にアンケート調査の趣旨説明をし、企画書（図3）の作成をし、調査依頼をし、5月末にアンケート実施できることとなった。学外でのアンケート調査では、買い物のお客様の邪魔にならないように配慮し、アンケートを実施させて頂いた。調査の趣旨を伝え、アンケートへの協力をお願いする。最初は、声をかけることすら出来ない学生も通行されているお客様の足を止めてアンケートの依頼をお願いすることができるようになっていた。また、アンケートに答えて頂いた方から励ましの言葉を頂くことで自信のある対応ができ、予想以上のアンケート数となった。

中国 SC 開発株式会社御中
卒業研究動向調査企画書
比治山大学短期大学部 総合生活デザイン学科 2 年
1. 目的 本学短期大学部卒業研究 「ひろしまの食への提言～ひろしまの B 級グルメについて～（仮題）」に おける動向調査をする
2. 調査対象 広島駅「アッセ」に来館されている一般客の方
3. 調査場所 アッセ 3 階（階直通エレベーター前）
4. 調査方法 一般客の方に動向調査をする（別紙）
5. 調査内容 ・広島の食イベントについて ・菓子博について ・B 級グルメについて など
6. 実施スケジュール、及び担当学生
●平成 25 年 5 月 25（土）15：30～17：30（2 時間程度） 担当学生 ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○
●平成 25 年 5 月 27（月）15：30～17：00（1 時間 30 分程度） 担当学生 ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○

図3 学生が作成した企画書

#### ●動いて見えてくるキャリアとは

中国SC開発株式会社アッセ事業部の課長代理Y氏（30歳代前半女性）との事前打ち合わせの際、代表で行った学生が、Y氏の名刺に書かれた『宅地建物取引主任者』に気付き、ゼミで話題となった。その後『宅地建物取引主任者』について調べ、アンケート調査の際にY氏に質問をし、アッセのような店舗との交渉や取引には必要な資格であり、国家資格であることがわかった。また、Y氏より、ご自身の就職活動について話していただくことで、働く現場で何が大切であるかを示唆していただいたことは大きな成果であった。そして、アッセ支店長S氏より、採用する立場での就活生へのアドバイスを頂いたこともよい刺激になった。なお、事後の礼状送付は、就職活動の内定後の礼状を想定し、全員に作成させた。

#### 4. さあ、就活だ！

総合生活デザイン演習の授業時に、キャリアセンターから届く求人票を閲覧し、時に個人面談をする。アッセでのアンケート調査後、その求人票を見る姿勢が変化してきた。Y氏が、「仕事は多面性があるもの。求人票に書かれていることだけで判断しない。気になった企業は、一般人としてお客として訪問する。自分の適性が分からないと嘆いてばかりいないで、自分をよく知っている人に聞いてみる。またアルバイト体験を自己アピールでする…」と話して頂いた影響か、3～4人の学生が気になる企業への会社訪問をし始め、キャリアセンターの方への相談やチューターの方に相談をするようになり、就職活動に漕ぎ出した。

## 5. 自分を掘り起こす

ゼミ生の一人が、会社訪問し書類の準備に入る様子を見せると全く就職活動に興味を見せない学生も「〇〇ゼミの〇〇さんが決まったらしい…」と発言するようになってきた。(しかしゼミ生の中には、2年になっても大学に定着しない者がおり、就職活動を始動した者との間に違和感が出てきたが、静観しつつの日々となった)学生にとり、社会に出るための就職活動は“はじめての経験”であり、「こんなことまで大学生になって…」と教員の側が考えるのはキャリア教育の放棄である。もちろん、就職活動は学生本人が主体である。しかし、マニュアルや携帯電話・スマートフォンがないと前に進まない学生にとり、就職活動はアナログであり、キャリアセンターやチューターや保護者という伴走者が必要である。『エントリーシート』を目前にして書けないと嘆く学生。自分を見つめてみてごらん！—中学・高校時代のあなたは？比治山短期大学部に入学した時は？アルバイト経験では何を？クラブ活動では何を？授業は何が？どんな大人に？志望する会社はどんな会社？—と、一対一で向かい合い掘り起こしていくと、自分には何もないと言っていた学生が書き始める。自分の「過去・現在・未来」を掘り起こすことを通じて、自信を持ち、自分の中にある適性に気付かせる「パラダイムシフト」が必要ではないか。

## 6. おわりに

今まで成功体験をあまり持っていない学生にとり、就職活動の結果、『内定』を企業からもらう事は、大きな自信になる。Oさんは、会社説明会では場所を間違え10分遅刻、その結果その後の就職活動では1時間前行動となった。友達が受験するからと適性判断をしない業種への応募に失敗し自信喪失となり、チューターとの面談とキャリアセンターとの面談で自己を掘り起こし、アルバイト経験が活かせる接客業に応募し内定を獲得した。内定を手にするまでの失敗は、決して無駄にはならなかった。キャリア学修がその後の授業への取り組みに反映され、食生活アドバイザー3級検定試験に4名中3名の合格や学業成績も向上した。

学校教育でのキャリア教育を受けてきた学生ではあるが、しかしながら自分がその時を迎えると、企業への電話をかけることでさえ、自力でできない学生もいる。卒業研究で実際に働く現場を見せることで、一歩進み、学生が自分を掘り起こす作業を様々立場から伴走していくことで、自分の適性や「働くということ」が実感となっていく。卒業研究とキャリア学修は別物ではない。卒業研究もキャリア学修も社会との関わりを学ぶものであり、人間形成をする学びであると言っても過言でない。

(受理 平成25年10月23日)